■2004年12月31日発行　■編集・発行／三重大学　広報室　TEL 059-231-9970　FAX 059-231-9797

Flash News

《フラッシュニュース》

三重大学
第21号

目次

●講演会「国立大学法人附属病院の経営と問題点」
●「やってみよう国際貢献！」
●現代ＧＰプログラム「全学的な知的財産創出プログラムの展開」研究会の開催
●「まんなかビジョン」討論会in三重大学
●知的財産教育セミナー「創造の扉、ロボコンを通して育む創造性と人間性」開催
●「わくわくプチロボフェア2004」
●ミャンマーの教師・児童が教育研修で来日
●教育学部で留学生との交流シンポジウム
●「教育学部主催防犯講習会」
●「新しいものづくりセミナー」シリーズ
●生物資源学部附属紀伊・黒潮生命地域ＦＳセンターで初めて国際ミニシンポジウムを開催

講演会「国立大学法人附属病院の経営と問題点」

12月17日に標記講演会が東京医科歯科大大学院医療政策学講座の川渕孝一教授を講師に招いて医学部臨床講義棟臨床第二講義室で開催されました。講演では、本学附属病院が経営面で全国の国立大学法人附属病院に比べどの様な位置にあるのかが報告され、また、平成15年から厚生労働省が導入した医療機関包括評価の対策としては、包括対象薬品と医療材料の削減や低価格品への切り替え、外来診療へのシフトが現実的な対策として示されました。さらに、医療の質と経営の質は相関するが、医療の質と医師・看護師数との間には相関がないこと、法人化後は管理会計（個々の施設に応じた内部管理）の整備が必須であり、中でも損益分岐点の検討は重要であることが強調されるなど、時にはユーモアを交えながら判りやすく、経営に馴染みの少ない者にも十分興味を持てる内容で、講演後の質疑応答も活発に行われ有意義な講演会となりました。

「やってみよう国際貢献！」

12月6日に三重大学にてＪＩＣＡ（http://www.jica.go.jp/Index-j.html）の協力を得て国際貢献セミナー（三重県主催）が開催され、延べ200名の参加者を得て、成功裏に終わりました。このセミナーは、将来の国際貢献の重要な担い手である学生が、セミナー等を通して国際社会についての関心や知識を深めると同時に、国際貢献意識・意欲の醸成、向上を図ることで、NGO、NPO等を通して具体的な国際貢献活動をすることにつながればと企画されたものです。今回のセミナーでは、講義やディスカッションを行い、国際協力に関する手段・方法などの情報が提供されました。より多くの学生が国際貢献活動について興味を持ち、卒業後のキャリア・デザイン（就職・ボランティア参加）の一考に資することを期待しています。

亀岡孝治副学長

現代ＧＰプログラム「全学的な知的財産創出プログラムの展開」研究会の開催

文部科学省の採択を受けて本年より４年計画で実施することとなった標記プログラムのキックオフイベントとして、第１回研究会が11月17日、講堂小ホールで開催されました。本田技研元常務：宍戸俊雅氏による記念講演に続いて、本プログラム代表：松岡　守教授・教育学部から、本プログラムの概要説明と知的財産教育関連の講義の公募、学生ベンチャー公募、学内発明コンクールの実施とアイデア公募の発表が行われました。公募等の詳細はhttp://oku.edu.mie-u.ac.jp/~matsuoka/chizai/に掲載されています。

「まんなかビジョン」討論会in三重大学

「まんなかビジョン」（http://www.cbr.mlit.go.jp/mannaka/）とは中部地域の地域づくり計画です。「まんなかビジョン」を充実させ、中部地域をさらに活性化するために、特にこれまで手薄であった若年層へのビジョンの発信と地域づくりに関する意見集約を目的として本学で標記討論会（主催：国土交通省広域連携中部会議フォローアップ会議、コーディネーター：児玉克哉教授・人文学部）が開催されました。まず12月13日に、「フォローアップ会議」から「まんなかビジョン」に関し講義形式の説明があり、それを踏まえて12月20日にはワークショップ形式で学生の意見を取り入れる試みがなされました。どちらの討論会にも約100名の学生が参加し、中部地域のまちづくりについて熱心に討論しました。

知的財産教育セミナー「創造の扉、ロボコンを通して育む創造性と人間性」開催

10月16日、標記の知的財産教育セミナーが本学の三翠ホールにてロボフェスタ2005三重実行委員会（委員長：石田宗秋教授・工学部）主催で開催されました。セミナーは豊田学長の挨拶に始まり、ロボット博士で有名な東京工業大学・森政弘名誉教授の「ロボコンの生み出す教育的な効果」というテーマの講演に続き「中学ロボコン最前線」と題するパネルディスカッションが行われました。（パネラー：安松大介教諭・長野県、中村講介教諭・福岡県、下山大教諭・青森県）中学校のロボコンの先進的な実践事例を映像を交えながら紹介され、先進的な実践や生徒の取り組みに驚きの声が上がっていました。

「わくわくプチロボフェア2004」

10月24日、三重県総合文化センターにて、本学教育学部技術科（世話人：村松浩幸助教授）は、特許庁・中部経済産業局、発明協会三重県支部と協力して標記フェアを開催しました。120名の小学校5,6年生を対象にしたミニロボット製作教室および附属中と津市の豊里中の生徒によるロボットのデモンストレーションを行いました。ロボット教室では同学部技術科の学生10名が、津工業・桑名工業の10名の高校生と協力して指導に当たるという初の試みがなされ、好評でした。中学生のデモンストレーションも技術科が授業支援を行ってきた取り組みであり、来場者の注目と子供達の歓声を受け、参加した中学生達も満足感を得ることができました。小中高大が連携し、さらに教育委員会も加わっての実施というこれまでにない取り組みができたことは、学校現場や地域との連携からも大きな成果となりました。

ミャンマーの教師・児童が教育研修で来日

教育学部附属小学校（校長：成田美代教授・教育学部）では、10月30日から11月30日までミャンマーからテインガンジュン教育大学附属小学校校長と児童１名（４年生相当）を研修のために受け入れました。これはNPO法人MMBF（代表上村眞由氏）による教育交流事業の一環として計画されてきたものです。児童は、約１ヶ月間の日本での生活をホームステイによって、実体験しながら文化や習慣を学び、学校生活においても登校初日からすぐに溶け込み、ホームシックにかかることなく楽しく過ごしていました。この教育交流を通して、両国の相互理解と教育の向上に役立ててほしいと願っています。なお、本学にもミャンマーからの留学生が在籍していますが、これを契機にミャンマーとの国際交流がより深まることが期待されます。

教育学部で留学生との交流シンポジウム

11月6日、教育学部国際交流委員会主催のシンポジウム（テーマ「留学生の学生生活」"Life on Campus-Faculty of Education"）が附属教育実践総合センターで開催されました。協定校の中国天津師範大学からの留学生と、本学から同大学へ次期留学予定の教育学部生及びタイと日本の中学校教員がパネリストとなり、集まった教育学部及び大学院教育学研究科に在籍する留学生・日本人学生・教職員が互いに交流を深めました。教育学部ならではの学校教育に関連した話題提供が多くなされ、非常に有意義なひと時を過ごしました。今後も互いに学びあう文化交流が期待されます。

「教育学部主催防犯講習会」

11月24日、教育学部主催の第１回防犯講習会が本学体育館で開かれ、50名を超える学生・職員が、津警察署生活安全課の田中係長と笠井主任による講話に熱心に耳を傾けました。護身術の実技指導もあり、初めて習ったという学生は、「武道を知らなければできないと思っていましたが、意外と簡単な方法があるのに驚きました」と語っていました。講話・実技ともに好評で、是非また開催してほしいという要望が多く寄せられています。

「新しいものづくりセミナー」シリーズ

11月29日、工学部が四日市フロントと連携して地元企業を対象とした「新しいものづくりセミナー」シリーズの第6回、「環境エネルギー問題における流れと熱工学の役目」（世話人：社河内敏彦教授・工学部）が“じばさん三重”で開催されました。加藤工学部長の「四日市における工学部の役割」を皮切りに「噴流工学とその環境エネルギー問題への応用」、「シミュレーションによる伝熱・混合制御手法の開発」、「マイクロ風車・小型風車の開発」、「熱・温度の計測と可視化技術」、「特許の活用の仕方」の話題提供があり、35名の参加者と活発な質疑が行われ、交流会も含めたセミナーは有意義なものとなりました。

生物資源学部附属紀伊･黒潮生命地域ＦＳセンターで初めて国際ミニシンポジウムを開催

12月3日－4日、「持続可能な農業の方向性と技術展望」をテーマにベトナム・フィリピンの研究者、農水省、県農業技術センターの研究者を交えたシンポジウムがＦＳセンターで初めて開催されました。このシンポジウムは、ＦＳセンターの設置理念である地域連携・国際連携のきっかけとしてセンター３部門のうち循環共生総合科学部門により企画されたもので、地元篤農家を含め、農場の会場には50名を超える参加者が、活発な討論を交わしました。今回は、センター職員や地域の関係者の啓発をめざして開催しましたが、今後は、部門単独あるいは共催でこの種の研究会を引き続き開催していく予定です。

投稿のお願い

各種事項（大学教育・研究、地域連携、国際交流、学内事業等）に関するフレッシュなニュース提供をお待ちしています。
亀岡孝治（vpre-info@mie-u.ac.jp）または井上真理子(mariko-i@ab.mie-u.ac.jp)まで。場合によっては、取材に出向きます。
《フラッシュニュースのバックナンバーは、三重大学ホームページで(http://www.mie-u.ac.jp) ご覧いただけます。》編集責任者／理事・副学長　渡邊悌爾